

那賀川自然再生事業の報告

那賀川河川事務所

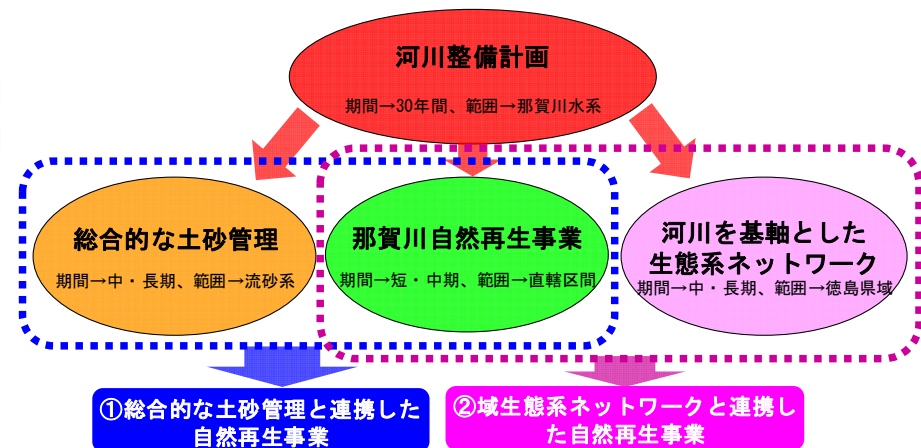
那賀川自然再生事業

那賀川自然再生事業〔R3～R27〕

整備目的 : 土砂動態の変化等により悪化した那賀川の河川環境を再生し、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の回復させる。
現状と課題 : 汽水域の干潟では、トビハゼやシオマネキ等などの魚類・甲殻類の生息場となっているが、水際の単調化や連続性の消失により干潟が減少しており、動植物の生息・生育・繁殖に影響を及ぼしている。下流域では、土砂供給量の減少等による河床低下の進行により、アユの産卵場やナベツルのねぐらとなる浅瀬が減少している。中流域では、樹林化が進行し、レキ河原や細流環境が減少しており、ナベツルがねぐらとして利用できる環境が減少している。
整備内容 : 汽水域<干潟・湿地環境の保全・再生> 高水敷整備、高水敷掘削、水制工整備、樹木伐採 等
 下流域<瀬環境・浅瀬の保全・再生> 河床整正、床止工（巨石根固め等） 等
 中流域<レキ河原・細流環境の保全・再生> 樹木伐採、河床整正 等

■基本的な考え方

- ◆「那賀川自然再生事業」と「総合的な土砂管理」「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」等の中長期的・重層的な取り組みとの連携により、那賀川の多様な動植物の保全・再生を図る。
- ◆阿南市が進める「生物多様性あなん戦略」の取り組みと「那賀川自然再生事業」を一体的に進めることにより、関係機関・地域住民等との連携・協働を図る。



■自然再生目標及び方向性

土砂動態の変化等により悪化した那賀川の河川環境は、現状のままでは自然の営力による回復は期待できないことから、関連工事等と連携して、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の回復を目指す。

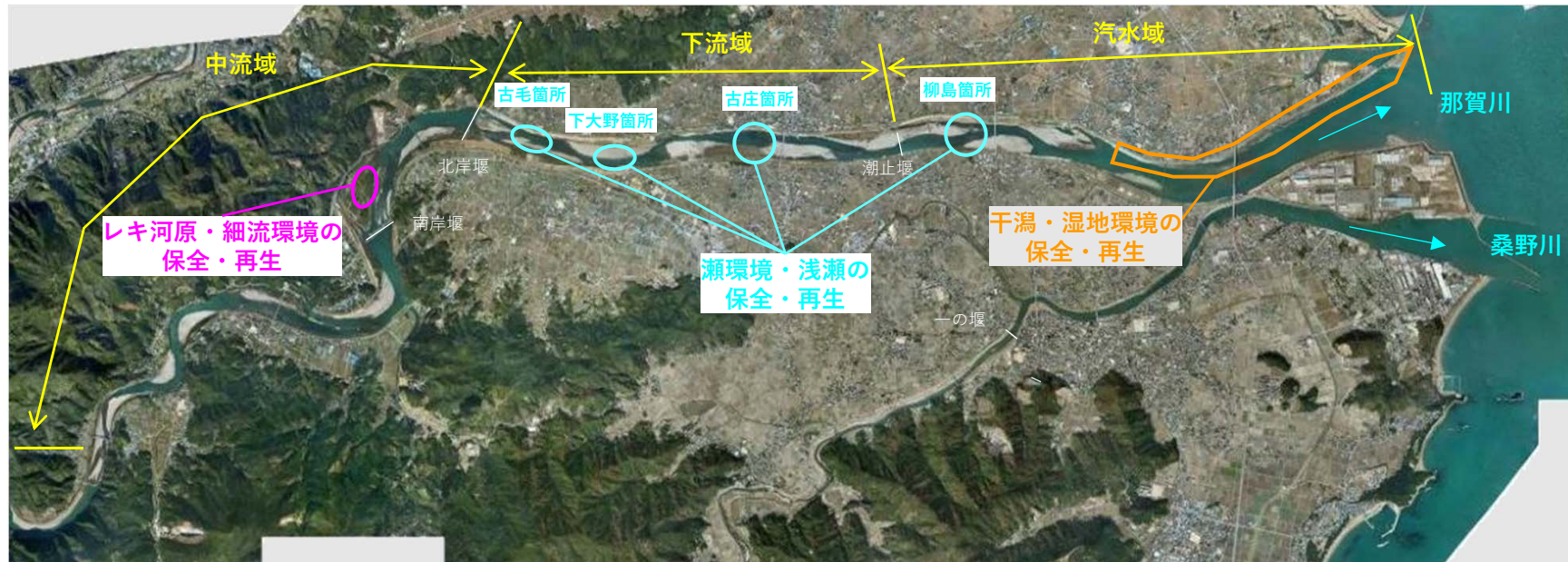
目標① アユの産卵場となる瀬環境やナベツルのねぐらとなる浅瀬などの保全・再生

目標② シオマネキ等が生息する干潟環境やコウノトリ・ツル類の餌場となる湿地環境の保全・再生

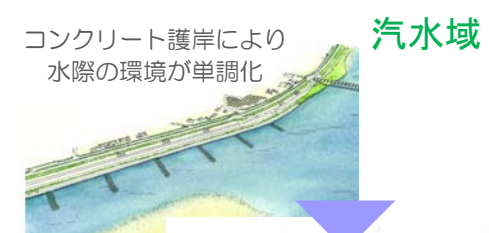
那賀川自然再生事業

■整備位置

現状における課題を踏まえつつ、生物の生息・生育・繁殖環境として機能が低下している場所を抽出し、河川整備計画との整合を図りながら、自然再生に向けた整備が実現可能な箇所を選定



■整備前後の状況（イメージ図）



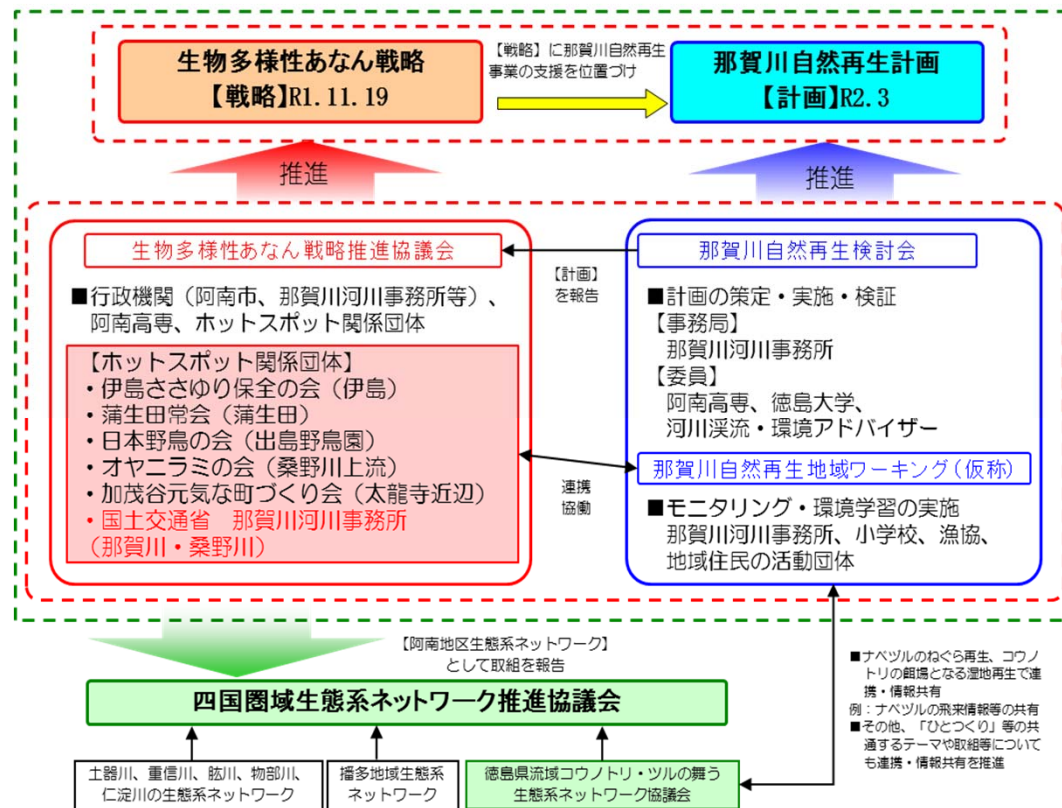
那賀川自然再生事業

■ 関連事業との整合

- ・ 那賀川自然再生事業は、阿南市で策定の「生物多様性あなん戦略」に支援を位置づけられており、事業の実施にあたっては阿南市、阿南高専および「阿南市生物多様性ホットスポット」の関係団体等で構成される「生物多様性あなん戦略推進協議会」と連携・協働を図っている。
- ・ 学識者を中心に構成される「那賀川自然再生検討会」と学校関係者・漁協・地域住民の活動団体等で構成される「那賀川自然再生地域ワーキング（仮称）」により推進する。

■ 地域交流・維持管理

- ・ 那賀川流域の小学校では、那賀川や自然環境をテーマとした環境学習が実施されており、今後も那賀川流域の特徴的な自然環境を教材とした環境学習や自然再生に関する勉強会・出前講座を実施することで、自然再生事業への知識や理解が高まり、地域が主体となった自主活動への移行が可能となる。
- ・ 漁業協同組合と連携した「アユの産卵場づくり」、日本野鳥の会と連携した「野鳥観察会」など、多様な団体が参画する維持管理やモニタリングへの発展を促す。



那賀川の環境や魚に関する
環境学習
(令和3年10月)



アユ産卵場づくり体験の
出前講座
(令和3年11月)



アユの卵観察会
(令和3年11月)



簡易水質調査と
水生生物調査の出前講座
(令和3年6月)



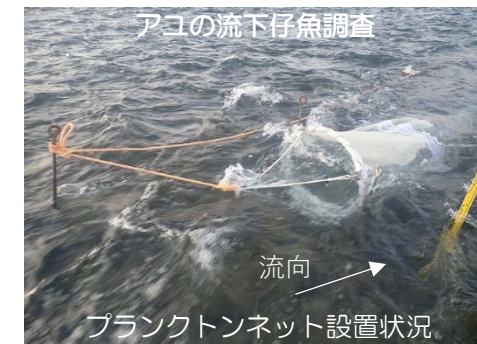
令和3年度に実施した自然再生事業に関するモニタリング調査項目及び調査位置図



潜水目視観察、箱眼鏡等を用いた陸上からの観察、石めくり等により、カジカの産卵状況を調査。



車両等を用い広い範囲を踏査して休息しているナベヅル等を探索し、ナベヅルが確認された場合は、休息している位置と個体数、成長段階等を記録



アユ仔魚の生態に合わせて、15時～翌朝5時まで、プランクトンネットによる採捕を実施。

■アユ産卵・ナベツル飛来確認状況（古庄箇所）

- 令和3年度のモニタリング調査により、古庄箇所において新たなアユの産卵場の創出を確認。
- ナベツル（ねぐらとして利用）も確認された。

■注意喚起看板の設置

ナベツルのねぐらとしての利用が確認されたことから、河川・溪流環境アドバイザーの柴折委員や日本野鳥の会に助言をいただきながら、ナベツルを驚かせないよう河川利用者に対する注意喚起の看板を現地に設置した。

